

Vinton G. Cerf 氏は MCI 技術戦略部門の上席副社長で、技術面からの企業戦略開発の支援が任務です。急速に展開する電気通信およびインターネットの技術開発の世界において、技術的能力は、製品およびサービス開発、インフラストラクチャーへの投資、そして戦略的企業買収や提携などの企業ビジネス戦略の成功に決定的な影響を及ぼし得ます。

これまでに Cerf 氏はアークテクチャおよびテクノロジー部門の上席副社長も務め、設計者やエンジニアのチームを統率して、企業および一般消費者向けにデータ、情報、音声、ビデオなどを合わせて配信するための、インターネットベースのソリューションを含む高度ネットワークフレームワークを構築しました。

「インターネットの生みの親」の1人として広く知られる Cerf 氏は、TCP/IP プロトコルおよびインターネットアーキテクチャの共同設計者です。1997年12月には、Cerf 氏は協力者の Robert E. Kahn 氏と共に、インターネット創立と開発の功績に対し、クリントン大統領よりアメリカ合衆国技術勲章が贈られました。

1994年にMCIに戻るまで、Cerf 氏は Corporation for National Research Initiatives (CNRI) の副社長を務めました。1982年から1986年までの間、Cerf 氏は MCI デジタル情報サービスの副社長として、インターネットに接続された最初の商業用電子メールサービスである MCI メールエンジニアリングを指揮しました。

1976年から1982年までの米国国防総省高等調査事業機関 (DARPA) 在任中には、Cerf 氏はインターネットおよびインターネット関連のデータパケットやセキュリティ技術の開発指揮において重要な役割を果たした。

Vint Cerf 氏は、Internet Corporation for Assigned Names and Numbers (ICANN) において理事長を務めています。また Cerf 氏は、1992年から1995年までインターネット学会 (Internet Society) の初代会長として活躍し、1999年には理事長を務めました。さらに Cerf 氏は IPv6 フォーラムの名誉会長であり、新たなインターネットプロトコルの認識を高め、迅速に導入するために貢献しています。Cerf 氏はさらに、1997年から2001年にかけて米国大統領府情報技術諮問委員会 (U.S. Presidential Information Technology Advisory Committee: PITAC) の会員として活躍し、さらにその他いくつかの国立、州立、および産業界のサイバーセキュリティ問題に焦点を当てた委員会に属しています。Cerf 氏は、Endowment for Excellence in Education、Folger Shakespeare Library、Gallaudet 大学、MarcoPolo Foundation、Digex, Incorporated、Avanex Corporation、Nuance Corporation、Hynomics Corporationsits の理事会員です。さらに Cerf 氏は、IEEE、ACM、American Association for the Advancement of Science、American Academy of Arts and Sciences、International Engineering Consortium、コンピューター歴史博物館、National Academy of Engineering の会員です。

Cerf 氏は、インターネットにおける功績に関連して数々の賞を受けています。マルコーニ協会 (Marconi Fellowship) 賞、米国立工学アカデミーのチャールズ・スターク・ドレイパ賞 (Charles Stark Draper award of the National Academy of Engineering)、科学技術に対するアストゥリアス王子賞 (Prince of Asturias award for science and technology)、チュニジアより贈られた国家科学メダル、聴覚障害者のためのアレクサンダー・グラハム・ベル協会 (Alexander Graham Bell Association for the Deaf) により授与されたアレクサンダー・グラハム・ベル賞、NEC コンピュータおよび通信賞、国際電信連合 (International Telecommunications Union) からの銀メダル、電気電子学会 (IEEE) よりのアレクサンダー・グラハム・ベルメダル、電気電子学会 (IEEE) よりの小林宏治賞、ACM ソフトウェア及びシステム賞、ACM SIGCOMM 賞、コンピューター通信産業協会産業献呈賞、ユリ・ルビンスキー Web 賞、キルビー賞、ヤンキー・グループ/インテロップ/ネットワーク・ワールド・ライフタイム功績賞、ジョージ・R・スタイビッツ賞、ワーナー・ウォルター賞、アンドリュー・サックス工学賞、電気電子学会 (IEEE) よりの IEEE Third Millennium Medal、コンピューターワールド/スミソニアン・リーダーシップ賞、J・D・エドワーズよりの協力リーダーシップ賞、世界障害問題研究所よりの年間賞、米国

議会図書館 200 年記念リビング・レジェンド・メダル (存命の伝説的人物に贈られる賞) などがある例です。

1994 年の 12 月には、Cerf 氏は雑誌『ピープル』で「最も興味のある 25 人」の 1 人に選ばれています。

Canadian Internet Registration Authority (CIRA) の初代理事である **Maureen Cubberley** 女史は、ブリティッシュ・コロンビア大学から **CIRA** に至るまで、**.ca ccTLD** 変移の交渉において大きな役割を果たしました。女史は **CIRA** の概念段階から立ち上げ、方針作成、そして登録作業稼働の成功までに貢献しました。女史は 3 期連続して理事長を務め、その間「**.ca**」登録は 6 万件から 40 万件を超えるまでに増加し、400 万ドルの年間予算の資金調達を成し遂げ、20 人のフルタイム職員を抱えました。**Cubberley** 女史は 2000 年から 6 度 **ICANN** 会議で **CIRA** 代表を務めています。また女史は、1998 年から 1999 年まで **Canadian Internet Society (CISOC)** の理事長も務め、さらにカナダの **Coalition for Public Information (CPI)** の共同創設者であり、元会長および **CEO** でもあります。

Cubberley 女史は、1995 年よりカナダの **ASM Advanced Strategic Management Consultants** の共同経営者であり、民間企業ならびに公営企業における、戦略的ビジネス計画ならびに新組織および統治機構の設計と導入を専門としています。**Cubberley** 女史は変更戦略、組織再構成、戦略的ビジネス計画、方針作成、法律分析の分野を専門としています。**ASM**、オンタリオ州の文化通信省、カナダ図書館協会、および **CPI** とのプロジェクトを通じ、女史は「カナダ人を結びつける」議題の一部の計画作成と開発に携わることが可能になりました。この計画は、公共アクセスインターネットサイトのカナダ全土ネットワーク構築、そして地方や遠隔地域におけるブロードバンドへの接続にとっての主要部分です。女史の最近のプロジェクトには、「スマートコミュニティ」イニシアティブが含まれます。

2001 年に **Cubberley** 女史は、公共事業リーダーシップのための **IWAY** 名誉賞を受賞し、さらに **CANARIE** (カナダ調査・産業・教育振興ネットワーク) から「**.ca**」ドメインの創立と構築への貢献において表彰されました。

Cubberley 女史はボランティアとして消費者健康情報サービスの諮問委員会、視覚障害者のニーズアセスメントカナダ研究所 (**CNIB**)、トリニティ・カレッジ・スクール保護者諮問委員会などを務め、さらにカナダ図書館協会の情報政策合同委員会議長を務め、ノーザン・エクスポージャー・リーダーシップ学会では指導者として活躍しました。

Cubberley 女史はオンタリオ州北部在住で、カナダ全土および国際的に活躍しています。

Eva Frölich 女史は、**Televerket** 社 (現在の **TeliaSonera**) にネットワーク エンジニアとして勤務していた 1980 年初頭以来、電気通信およびインターネット産業において 20 年以上の経験を持ちます。女史は早くから命名、番号指定、アドレス指定にかかわるようになり、1980 年の半ば以来それらが彼女の生活の一部となりました。

1990 年代中、**Frölich** 女史はスウェーデンの郵便電気通信省に務め、省の代表として、命名、番号指定、アドレス指定に関する開発を協議する **ITU**、**ETSI**、**ECTRA**、その他の団体に参加するようになりました。

1997 年には「**.se**」登録機関である **NIC-SE**に参加し、**CENTR** および **ICANN** の会議に参加しました。女史は 1999 年から 2002 年の間 **CENTR** 理事会員を務めました。

2001 年に **NIC-SE** を後にし、その後 2 年間 **Neustar** および **.biz** の業務に従事し、その後コンサルタント会社を設立しました。女史は昨年より「**.org**」登録機関である **PIR** の理事会員を務めています。

Roberto Gaetano 氏は 1997 年以来、インターネットおよび ICANN の方針作成プロセスで活躍しています。ETSI (European Telecommunication Standards Institute) の代表として、CORE (Council of Internet Registrars) の設立、アメリカ合衆国『白書』(白書に関する国際フォーラム)をめぐりの方針協議、ICANN の元のドメイン名サポート機関 (DNSO) の設立において重要な役割を果たしました。同氏は DNSO 総会の初代議長の 1 人を務め、近年においては、個人ユーザーならびに登録機関の組織作りに貢献しました。

Gaetano 氏は、電気通信および情報技術の分野において 30 年近くの経験を持ち、国際団体においてアプリケーション開発の任務についています。また Gaetano 氏は、米国とヨーロッパの両方で 12 年間 IBM に勤務した経験を持ちます。

Gaetano 氏はヨーロッパ言語 5 か国語に堪能です。

伊藤 穰一氏は、ウェブログの索引付けおよび監視を行う [Technorati](#) 社の国際・モビリティ開発部門の副社長であり、ウェブログソフトウェア会社である [Six Apart](#) の会長です。さらに同氏は、純粋な公的ドメインや全権利の留保などの両極端ではない、権利管理における中間的方法を提案する非営利法人である [Creative Commons](#) の理事会員でもあります。

氏は PSINet Japan、デジタルガレージ、インフォシーク ジャパンなど数々の会社を立ち上げ、1997 年には『タイム』マガジンにおいて「サイバーエリート」の 1 人に数えられました。2000 年には『ビジネス ウィーク』誌において「アジアの 50 人のスター」の 1 人に選ばれ、また情報技術発展への貢献に対し日本の郵政省より表彰されました。2001 年には世界経済フォーラムにより、2002 年の「明日のグローバル指導者 (GLT) 100 人」の 1 人に選ばれました。同氏は日本の数々の中央政府および地方政府委員会や理事会員を務め、政府に情報技術、プライバシー、コンピュータセキュリティ問題に関するアドバイスをしています。氏は現在日本の一橋大学大学院、国際企業戦略研究科において経営学博士候補として「共有経済」の研究をしています。同氏は人気のウェブログ (<http://joi.ito.com/>) でオンライン コミュニティに氏のアイデアを定期的に共有しています。

伊藤氏の履歴は <http://radio.joi.ito.com/outlines/cv.html> に公開されています。

Yassin Mshana 博士はエンジニアとして 20 年の経験を持ち、過去 10 年間は博士レベルにおける経験です。この間、同氏はいくつかの国内外の組織ならびに養成学校で講師、研究者、助手、設計・技術の教師を務めました。さらに、Mshana 氏はプロジェクト管理および組織指揮能力 (世界銀行から出資を受けたタンザニアの [African Virtual University](#) (AVU) の設立における指揮) にも優れています。その後同氏は同じくタンザニアにおいて世界銀行機関の Global Development Learning Network (GDLN) のトレーニング コーディネーター、後に理事代行を務めました。

機械エンジニアとして、Mshana 氏はシティ ユニバーシティ (英国) より博士号を、マンチェスター工科大学 (英国) より科学修士を、タンザニアのダーゼサラーム大学より理学士号を授与されています。また氏は英国の PGCE (大学院課程教員資格) を有しています。氏は英国の技術者協会、タンザニアのエンジニア協会、英国の教師と講師の協会、東アフリカ中央アフリカ貧困削減ラーニング ネットワーク、ICT 方針開発 e-ThinkTankTz などをさまざまな団体の会員です。氏は職務上およびボランティア活動の両方で ICT のより広範囲の使用を推進するために貢献してきました。

近年では、DFID、FAO、UNICEF などの国内外の団体から南アフリカ地域におけるコンサルタントサービスの提供依頼を受けています。

Jean Armour Polly 女史は [Liverpool \(NY\) Public Library](#) に副館長およびシステム テクノロジー部門の管理者として勤務する司書です。

女史はまた「Net-mom® (ネットママ)」としても知られる、子供たちに役立つ何千ものインターネットリソース集である『*Net-mom's Internet Kids & Family Yellow Pages*』(Osborne McGraw-Hill 出版) 6 版の著者です。

「Net-mom®」ブランド下において、Polly 女史はメディア認識組織 [CommonSenseMedia.org](#) のウェブサイト レビュー編集者をしています。これまでのクライアントには、America Online、Bertelsmann Foundation、Children's Television Workshop、Disney Online、日本インターネット協会、MCI Foundation、Morino Institute、Ask Jeeves for Kids などが名を連ねています。

Polly 女史は、Internet Society および Internet Content Rating Association の理事会員を務めてきました。さらに女史は、ThinkQuest Internet Challenge、Cable and Wireless Childnet Awards、Global Schoolnet Cyberfair などの青少年の国際コンテストに貢献してきました。

ドメイン所有者、商標所有者、そしてコンテンツ・プロバイダーとして、Polly 女史はさまざまな角度から DNS を捉えています。「長い間インターネットの家族問題分野に係わってきて、DNS 全般のエンドユーザーだけでなく、若い人たちの利益を代表したいと思っています。若い人たちにもこの話し合いに関与してもらう必要があります。」と女史はコメントしています。

1970 年に大学を卒業した、ブラジル国籍の電気工学士である Vanda Scartezini 女史は、1970 年以降民間の技術会社や公的機関において多くの管理職に就いてきました。また女史はブラジルで 1985 年に設立された情報技術会社 Polo Consultores の共同創設者です。女史はブラジル産業技術省の長官、ならびに情報技術省の長官を務めました。また女史はブラジル特許局の局長も務めました。2000 年から 2004 年 3 月までは、ICANN GAC のブラジル代表を務め、GAC の副議長の任期 (2004 年 3 月に任期終了) を務めました。

女史は世界中の多くの国際会議においてブラジル代表としての務めを果たすだけでなく、WIPO、UNDP、UNCTAD などの機関で専門家・コンサルタントとして活躍しました。また昨年まではブラジルでも有数のビジネス学術機関 ([FGV – Fundacao Getulio Vargas](#)) の 1 つにおいて MBA レベルで知的所有権について教鞭をとりました。

女史はブラジルにおける数々の情報技術団体の役職を持っており、また女史は 4 つの研究開発機関の理事会員であり、ブラジルにおいて 2000 以上ものソフトウェア事業立ち上げを行った協会である Softex の副社長でもあります。女史はブラジルの情報技術業界において多くの主要な賞を受賞しています。

コンピュータ・サイエンスにおいて理学士号を持つ Charles Sha'ban 氏は、Talal Abu-Ghazaleh Organization (TAGO) のメンバーである [Abu-Ghazaleh Intellectual Property](#) (AGIP) 地域局の事務局長を務めています。同氏は AGIP 執行委員会のリーダーであり、TAGO の Digital Office Committee (DOC) のメンバーであり、会社の方針と作業プロセスの定義を指名とする AGIP の Professional Development - IP Committee (PDI) のメンバーです。

Charles Sha'ban 氏は情報技術 (IT)、知的財産権 (IPR)、汎用および国コード・ドメイン名、そして多言語ドメイン名問題の分野において豊富な経験を持ちます。

現在同氏は ICANN (Internet Corporation for Assigned Names and Numbers) の Intellectual Property Constituency (IPC) のメンバーであり、2003年には Internationalized Domain Names (IDN) Working Group の議長を務めました。また Multilingual Internet Names Consortium (MINC) 理事会員、

International Trademark Association (INTA) 会員、INTA INTA Internet Committee の登録業務・DNS 管理小委員会会員であった経験も持ちます。

また Charles Sha'ban 氏は Internet Society (ISOC)、Arab Knowledge Management Society (AKMS)、Arab Society for Intellectual Property (ASIP)、Jordan Computer Society (JCS) の会員です。また、氏は Arab Internet Names Consortium (AINC) の創立会員ならびに元役員会員でもありました。